

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2025.09.No337

9月号

目次

防災の日	1
まちづくりフォーラム	2
特集 北海道建築士会 会員作品紹介 2025	4
津波避難施設概要	6
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

防災の日

災害対応委員会 委員長 土田 浩 貴 (上富良野支部)



日頃より災害対応委員会の活動にご協力とご理解頂きましてありがとうございます。

9月1日は防災の日です。1923年9月1日関東大震災にちなんだものです。1960年に制定され今では各地域での避難訓練や防災に関する行事が行われているようです。

昨年話になりますが令和6年8月8日に気象庁により南海トラフ地震臨時情報が発表されました。大規模地震発生の可能性が高まったと考えられましたがその後地震活動や地殻変動が観測されなかった為、1週間後の8月15日にその臨時情報発表に伴う「特別な注意の呼びかけ」は終了しております。

私たち北海道からは距離も遠く他人事に思われる方もいるかもしれませんが、沿岸の地域の方は津波が到達する場合があります。くれぐれも油断せず最新の情報を確認して頂ければと思います。

北海道では直接の被害が想定されると言われている十勝沖から択捉島沖及びそれより東の海溝を千島海溝と呼ばれその千島海溝沿いの巨大地震について科学的知見に基づき想定される最大クラスの地震が発生した際に、根室市からえりも町付近にかけて10～20mを超える津波高を想定されています。えりも町よりも西側の苫小牧市や函館市などでも10m程度の津波が想定されています。いずれにしても、いつ起こるかわからない災害に備えて日ごろからお住まいの地域のハザードマップ等の確認をしておくことが大切です。

災害対応委員会では今年度も応急危険度判定士机上訓練の講習会を6月21日斜里町にお邪魔して講習会を行いました。ここ数年応急危険度判定士が減少しています。人口減少の関係もあるかもしれませんが、万が一の災害に備えて応急危険度判定士の登録のご協力お願い致します。応急危険度判定は地震により被災した建築物について、その後の余震等によ

る倒壊の危険性並びに建築物の部分の落下、あるいは転倒の危険性に出来る限り速やかに判定し、その結果に基づいた恒久的復旧における被災建築物の使用にあたっての危険性を情報提供することにより被災後の人命に係る二次災害を防止することを目的としています。罹災証明とは全く別なものなので混同なさらずお願い致します。

そして過去に講習会を受講して登録していない方や、更新時期が過ぎている方も多くいらっしゃいますのでお手元にある北海道震災建築物応急危険度判定士認定証の確認お願い致します。

北海道内で震災が起こった場合に北海道建築士会各支部と各市町村との協定締結により迅速な応急危険度判定を行う事が出来ます。通常だと被災した市町村から北海道へ応急危険度判定士派遣の要請を行い地区協議会等から北海道建築士会に応急危険度判定の要請、そして北海道建築士会会員の応急危険度判定登録者かつネットワーク登録者に参集意向の確認の流れになります。市町村と各支部との協定締結後には、震災した市町村は支部に直接応急危険度判定の要請をすることができます。また緊急の場合には口頭で要請可能になります。

令和7年7月現在、7支部が12市町村との協定締結されております。今後も協定締結に向け準備が進んでる支部も報告受けております。

話が変わりますが、5月24日に青年建築士の集いのお手伝いをさせて頂きました。十勝岳の砂防ダムを見学しその後DIGを行いました。通常行うDIGにDoHUGとクロスロードを掛け合わせて行い、数回のイベント毎に状況に応じた行動、さまざまな意見が飛び交い各テーブルの発表ではそれぞれの想いや取り組む姿勢がすごく勉強になりました。また機会があれば実施できればと思っております。

「まちづくりフォーラム in 網走」開催



まちづくり委員会 石川 俊 樹（網走支部）

「於不津く（オホーツク）のモヨロの浦の夕風に
いにしよ志のび 君と立つかな」

昭和二十年、第二次世界大戦が終わった直後、アイヌ語学者の金田一京助氏が米村喜男衛氏の案内でモヨロ貝塚を訪ねた際の歌を詠まれた。

戦後を生き抜き、いまを生き、さらに80年、21世紀を生きる網走の姿が見えてくるに違いない。

去る6月14日（土）、網走まちなかコワーキング「NASCITA（ナシタ）」において「ミライの網走を創造しよう」と題して2025年北海道建築士会まちづくりフォーラム in 網走を38名（WEB参加者を含む）の参加者により開催した。フォーラムの趣旨として、オホーツクに面する豊かな自然と、固有の地域特性に恵まれている網走市において、自然景観と人間の活動、生活空間が調和した「まちづくり」を創出するために、網走の魅力である「海・川・湖・山」等の恵まれた環境の観点から、人とまちをつなぐ網走の魅力を再考するきっかけを、建築士と来訪者が共に創造することである。

冒頭、まちづくり委員である松本委員長があいさつした後、網走市長水谷洋一よりご挨拶いただき網走の想いを厚く深く丁寧に届けていただいた。



網走市長 水谷洋一氏



松本委員長

第一部：まち歩き

テーマ「商店街の移り変わりに時代が見える」

網走まちなかエリアの一部を参加者と散策する。ボランティアガイドを務めてくださったのは株式会社まちなか田中雄一氏。この商店街で100年近くの歴史を持つ「フジヤ書店」という本屋の三代目であり、商店街振興組合の前理事長でもある。2017年には「株式会社まちなか網走」なるまちづくり会社も立ち上げた。今後、抱える課題と田中さんが思い描く商店街の未来について話を聞きながらまちあるきを行い、空家や空き店舗など、どのように活用した

らよいか、まちづくりの視点からも感じていただけたかと思う。通称シャッター街と呼ばれる各市町村の共通の問題において、網走は比較的営業されている店舗が多いという感想が多かった。普段この街に住む私にとって「まち」は少しずつ寂しい印象が拭えなかったが、同年2月より網走市庁舎が市街地の中心に生まれ、その波及効果がこれからの「まち」を新たな姿を想像できたのかも要因の一つである。また商店街が人と人のつながりによる関係も大きく関与し、「人とまち」をつなぐ想いの強さがある。



まちあるきの様子

第二部：パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、普段まちづくりに取り組んでいる方々から3名の方をお招きし、さまざまな活動を報告していただき、みらいの議論を構築する場となるよう多様な角度から人選した。

一方目は、網走市役所建設港湾部長立花学氏。

網走市のまちづくりについて、プレゼンテーションをいただいた。立花氏は「網走ウォーターフロント協議会」として活動、網走川が有する魅力を最大限に生かし、地域の活性化を図ることを目的に活動しており、また行政の視点から今後の網走のミライを語っていただいた。「網走市の概要」「都市機能誘導構想」「近年の公共施設の建替え状況」「網走かわまちづくり計画」「将来の網走」など多岐にわたりプレゼンテーションをいただき、網走をより深く理解できる内容であった。続いてパネルディスカッションへ進む。ご登壇いただいた方は以下4名。

- ① 網走市役所建設港湾部長 立花学氏。
- ② 株式会社まちなか代表 田中雄一氏。
- ③ 西網走漁業協同組合 山本正樹氏。
- ④ 北海道建築士会網走支部 塩川顕児氏。

立花氏は「行政」からの視点や「かわまちづくり」の展望を踏まえた網走のミライ構想、山本氏は西網走漁業協同組合青年部部長を長年にわたり活動され、第一次産業でもある「漁業の視点、漁業とまちづくりにおける今後の視点」で、塩川氏は建築士会網走支部支部長として長きにわたりご尽力され「建築士の多様な角度からの視点」で意見をいただいた。

ファシリテーターを担当したのは松本委員長。パネラーと積極的に進行が進む。「ハード面やソフト面」「市民と行政の連携」「ミライの展望や想い」「建築士の役割について今後できること」など分野の異なる4名のパネラーから、深く議論できる内容となった。当初、学生の登壇者や参加者も視野に入れたが、日程が合わず参加できなかった。学生など若い視野があるときと議論がさらに多様になったに違いない。



パネルディスカッションの様子

第三部：グループワークディスカッション

第一部「まち歩き」、第二部「パネルディスカッション」を通じて、第三部の「グループワークディスカッション」は一般市民や建築士などが参加する。

グループはあらかじめA～E班に振り分け、テーブルマスターとしてまちづくり委員である、清水氏、山田氏、鈴木氏、佐々木氏、酒井氏にそれぞれ配置いただいた。グループワークの内容は以下の通り。

第一部：「魅力よ甦れ！中心市街地編」

第二部：「あなたが空家ハンター！どう再生する？」

自由な発想で思いのたけをぶつけて意見を出し合っていた。グループワーク開催にあたり「プレストカード」というカードゲーム形式のワークショップとした。プレストカードとはどういったものなのかをまちづくり委員永井氏に説明いただいた。イラストからアイデアを連想する「発想力」と他人のアイデアを膨らませる「乗っかり力」を駆使してアイデアをたくさん出すカードゲームである。

- ・アイデアの質より量を重視すること
- ・他人のアイデアに乗っかること

この2つの原則がルールに組み込まれている。「色々な捉え方ができるカードの絵柄が、アイデア

に広がりをもたらしてくれる」「色々な発想法のメソッドが散りばめられていて、シンプルに見えて奥が深い」「フレームがあったからやりやすかった」「カードのおかげで変なアイデアもどんどん出た」といった声があり、参加した方の中には初めてプレストをするという方もいたが、あちこちで笑い声が聞かれ、普通の会議では出て来ないようなアイデアやワードが飛び交っていた。その後テーブルごとに発表が進む。



グループワーク発表の様子

今回、まち歩きからパネルディスカッションまでWeb配信を試みた。同年4月に開催された「まちづくり会議」から概ね好評を得たことから遠方の方や当日参加できなかった方が複数名参加された。今後も継続的に配信も取り入れたいところだ。また課題として、内容が濃い有意義なフォーラムであることから、いかに建築士会会員や一般市民、学生など参加しやすい魅力的に感じるフォーラムとなるかは今後の大きな課題である。是非とも北海道ブロックエリア開催ならば、足を運んでいただき、遠方の方にはWeb配信で参加していただきたいと願う。

街は、あるときはゆっくりと、少しずつ、
またある時は一気に、大きくその姿を変えます。
より機能的に、住みよく、そして美しく。
人が生まれ、成長し、成熟していくように、
街もまた、その姿を変えていく。
活力あるオホーツクの人間都市を目指して。

「人とまちをつなぐ網走の魅力を再考するきっかけを、建築士と来訪者が共にミライの網走を創造する」参加された方にとって、また北海道建築士会にとって、このフォーラムはどのように感じましたか。

皆様が今後、まちづくりに関わるときの「きっかけ」となれば幸いです。

最後に北海道建築士会まちづくり委員会、お手伝いいただいた網走支部青年部の方々、参加された多くの方々の皆様にこの場をお借りし感謝申し上げます。

本誌及びホームページにて募集した会員の皆さんの作品をご紹介します。14回目となる今年は、4作品が集まりました。当会の目的でもある建築士の品位の保持及び技術の向上並びにその業務の進捗改善を図り、広く社会公共の福祉増進と併せて北方建築文化の発展に寄与するための一助となることを祈念し、今後もこの取り組みを継続していきたいと考えておりますので、みなさんからのたくさんの応募をよろしくお願いいたします。なお、応募作品はホームページにも掲載していますのであわせてご覧ください。

『LMB』

【設計監修/施工監理】
中井 寿也 / アトリエTARŌ (札幌支部)

外観 (昼)



外観 (夜)



内観



【コンセプト】

このプロジェクトは、申請敷地及び隣接敷地一帯で医療施設を建設する新築計画である。申請建物は1階を調剤薬局、2・3階を貸しテナントとしています。外観デザインは、白いタイルやポイントタイル及びカーテンウォールなど、隣接建物と統一した印象を演出した。1階の内装は、家具等を古木風カラーで落ち着いた雰囲気をもたせ、ポイントとなる家具・サイン・インテリア等を薬局のイメージカラーのグリーンで爽やかなイメージに仕上げました。

【所在地】札幌市豊平区平岸 【建築用途】調剤薬局+事務所 【建築年】2023.9
【工事施工者】株式会社丸竹竹田組

『好き、に囲まれて』

【設計】
古館 尚広 / NAO建築設計合同会社 (札幌支部)

外観 (夕景)



内観



内観 (夕景)



【コンセプト】

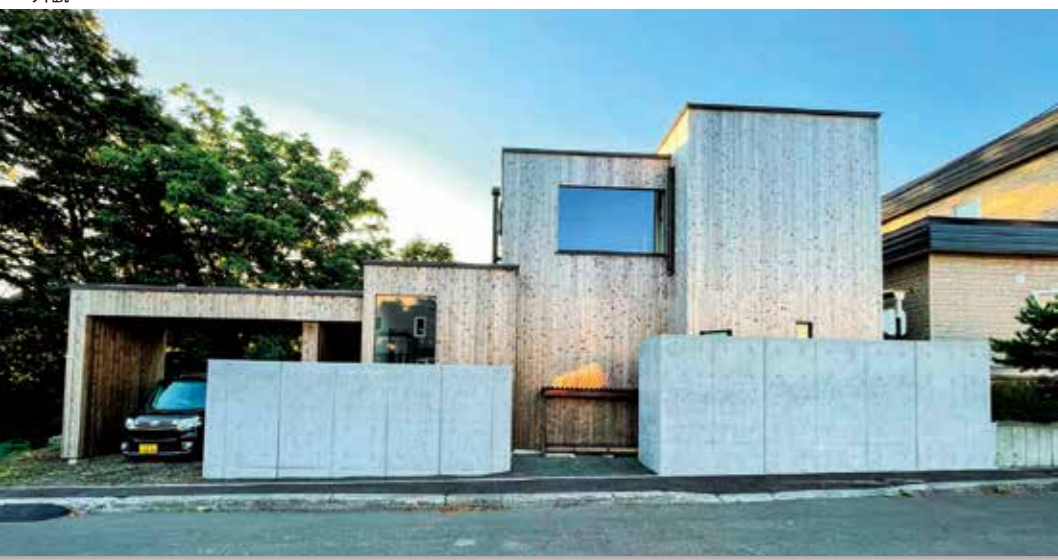
当敷地は第一種低層住居専用地域で前面道路幅員4m、南側はお寺、その他周辺はアパートや住宅に囲まれた41坪の狭小地。お施主様はカーテンを付けたくない生活がしたい。素材感にこだわりたい。インナーガレージが欲しいと言うご要望でした。南側に軒高までの目隠し壁を配し、内部は大開口の窓と吹抜にすることで、お寺の存在感を消し、尚且つLDKを視覚的に広く魅せる効果を狙った。同じようにインナーガレージ上階も目隠し壁で囲みルーフトバルコニーとした。主寝室はその南北の壁で周囲の視覚をカットして空だけが広がる空間となりました。内外のテクスチャーも外から内に繋がる部分は同素材を使用したり、ソリッド感や無機質感の中に天然木を上手く取り入れることでお施主様が望む調和が取れた。インナーガレージから直接、パントリーへ買い物を入れることができる動線も喜んでいただけました。

【所在地】札幌市南区 【建築用途】住宅 【建築年】2024.12 【工事施工者】株式会社カムズ・コンストラクション

『猿梨の家 — 狭間の階調 —』

【設計】
楠山 秀貴 / 株式会社札幌日総建 (札幌支部)

外観



内観 (リビング)



内観 (ダイニング・キッチン)



【コンセプト】

住宅街と森林の境界線上に建つ自邸。ここには元来より落葉性の猿梨が自生し、他の樹木に寄生するかのごとく、ツルを伸ばし生長し続けている。それは樹木同士を少しずつ繋ぎ合わせ、馴染ませていく仕組みのようにも感じられる。住宅街と森林の狭間に位置するこの場所には、この仕組みのように双方を緩やかに繋ぎ合わせ、馴染ませていくグラデーション (階調) を有した建築が相応しいと考えた。森林から生ずるように低層部が立上り、徐々に住宅街のスケールに近づいていく。内部空間も外部形状に応じて天井高さに変化し、森林との距離感が場所ごとに変化し、多様な開口部と合わせることで、様々なグラデーションのある平面計画を意図している。この自邸は住宅街と森林を緩やかに馴染ませていく。

【所在地】北広島市西の里 【建築用途】住宅 【建築年】2022.11

『発寒の家』

【設計・施工】
佐藤 栄司 / ミサワホーム北海道株式会社 (札幌支部)

外観 (夕景)



内観 (子世帯2F LDK)



内観 (子世帯 主寝室)



【コンセプト】

札幌市西区発寒の地下鉄沿線の市街地の建て替えで完全分離の2世帯住宅。1階玄関で行き来するプランで子世帯のメインはLDKも含め2階にある。限られた敷地の中、子世帯の収納を確保する為、2階床レベルに1.25mの天井高さにて5.25帖の特殊物置を計画。そのため、2階リビングは3.55mの天井高となり開放的な空間に、内外装とも明るいナチュラルなインテリアで纏め、スキップフロア採用により、変化に富んだ空間が生まれた。上記、特殊物置下に親世帯寝室を配置することで、遮音性の高い快適な寝室が得られる設計とした。

【所在地】札幌市西区発寒 【建築用途】住宅 【建築年】2025.3
【工事施工者】ミサワホーム北海道株式会社

全国初！寒冷地仕様の避難タワーが完成

北海道釧路町防災安全課防災対策係

〈はじめに〉

釧路町は北海道の南東方に位置し、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波の影響を受ける地域とし、30年以内に大地震の発生が予想されています。特に太平洋に繋がる釧路川沿いの本地区は、昭和50年代に建築された戸建木造住宅により構成され、津波から身を守る高く強固な建物が立地せず大きな被害が想定されておりました。

このことから、緊急避難施設の整備が急がれておりましたが、建設可能な空地は都市公園しかなく4棟の建設となりました。多くの制約もありましたが避難時間の短縮には効果が高くなりました。

〈周辺インフラに頼らない強固な避難施設〉

設計に際し、第一には町民が迅速かつ安全に避難できる場所でなければならないこと、避難者は48時間程度ここで過ごすことにより、周辺インフラが崩壊していても最低限の生活機能を確認した建物でなければならないと考えております。鉄骨造3階建て、1階部分は円柱ピロティ形式により波を逃がし、津波基準水位より高い2階、3階に避難室を設け、アプローチはスロープから1か所、階段から2か所、計3方向を確保しました。平時はゲート施錠されていますが、J-アラート防災行政無線による避難指示発令と連動した自動開錠システムとし、有事の際に誰かがカギを開けることを待つ必要はなく迅速な避難を可能としています。

設備としては、太陽光発電・蓄電設備の設置や、災害時に有効なプロパンガスを熱源とする発電機の設置を行うことで、無停電化を実現しております。

公共上水道や公共下水道にも接続せず、循環式汚水再利用装置によりトイレ問題をクリアするなど、高い耐久性と安全性を誇れる施設となっております。

〈寒冷地仕様としては全国初となる避難タワー〉

災害はいつ起こるかわかりません。それが厳寒期であったなら、雪から、寒さから身を守ることは絶対に必要なことです。東日本大震災のあの映像は忘れられません。そこで思い切ってタワーを壁や窓、ネットにより雪の侵入を止め室温低下を防いでおります。プロパンガスを主熱源とする暖房機も設備し、津波から逃れた後の対策も考慮しています。

〈その他の配慮〉

防災行政無線の放送は室内に流れますが、最大の情報収集手段は個人スマホと考え、USB充電ポートを設置。また防災備蓄庫は設けず、避難室壁面に可能な限り収納棚を設け、備蓄品を収納することで、必要避難スペース確保に合わせて、備蓄品の取り出しやすさに考慮しています。

屋上は物資供給や緊急搬送のためのホバリングスペースとしており、ペット同伴での避難も可能な施設となっております。

〈おわりに〉

現在、4棟建設計画のうち現在、中島公園、春日公園、いづみ公園内に建設した3棟の津波避難タワーが完成。緑公園内の1棟が今年の10月に竣工を予定。7/30に発生したカムチャツカ半島付近の地震による津波警報時において、地域住民が多数避難施設として利用されたところがございます。

防災施設は「使われないことこそが望ましい」特殊な施設であり通常の設計コンセプトと違い悩ましい部分もありましたが、この施設が本当に使われる日が来ないことを願うばかりです。



中島公園内：津波避難施設 外観



中島公園内：津波避難施設 避難室内観

函館支部

建築士の日イベント ワインと地酒の夕べを開催して

事務局次長

谷内 正則



函館支部では、7月1日の建築士のイベントとして、「ワインと地酒の夕べ」を開催しました。以前は、「チャリティ ピア&ダンスの夕べ」として、毎年ホテルの大きな宴会場を貸切り、バンド演奏でダンスを楽しんだり、バイキング形式でたくさんの種類の料理を堪能するなど、700名以上の方々にご参加いただいた時もありました。しかし、新型コロナウイルス感染症が流行すると、同じようなイベントを開催することができず、つらい時期が数年ありましたが、令和5年にやっとの思いで「ワインと地酒の夕べ」を開催しました。「ワインと地酒の夕べ」は、以前とは異なり、ホテルの宴会場で開催とはな

らず、公共施設である「函館市まちづくりセンター」の2階ホールで開催し、規模も内容も大きく縮小する形となってしまいましたが、ワインと地酒の飲み比べができるイベントとして、参加した皆様から好評頂きました。このような形にして3回目の開催となりましたが、今回は会場を替えて「亀田交流プラザ」の講堂で開催しました。初めて開催する会場のため、実行委員長である(株)澄建築設計事務所の永江さんが、入念に会場管理者との打ち合わせを重ね、準備を行いました。

開催当日、会場に多くの実行委員が集まり、汗をかきながら設営準備に取りかかり、予定どおり開催準備を整えることができました。この実行委員の頑張りが伝わったのか、開場の時間となり、会場の外の通路を見渡すと、たくさんの方が待っていました。参加者は、受付でもらった

グラスと軽食を手に笑顔で会場へ入り、30種類以上もあるお酒コーナーからそれぞれ好みのお酒を選んで、飲み比べと交流を楽しみ、テーブルから人があふれそうになるくらい、たくさんのご来場を頂きました。その後、二本柳支部長の乾杯で始まり、途中、たくさんの企業から協力をいただきました。海産物のセットや、充電できるおりたたみ扇風機など、豪華景品を用意することができ、紙面の上からではありませんが、協力いただきました企業の皆様ありがとうございました。たくさんの方が集まり楽しく交流できたのも、実行委員長である永江さんを始め、実行委員の皆さん、協賛いただいた企業の皆様、参加された皆さんのおかげで、無事に閉会することができました。皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



支部長の乾杯でスタート



楽しく飲んで、交流を深めます



楽しく飲み比べ



最後に実行委員で集合写真

空知支部 美唄分会

創立70周年をもって当分会解散へ

分会長

佐藤 隆行



当会は昭和31年に発足し本年度創立70周年を迎えました。しかし、近年会員数が激減し運営困難と判断し本年度をもって解散することとなりました。当会だけの問題ではありませんが、日本の少子高齢化や建築業界の労働人口減少により、人手不足が深刻化しており新たな人材確保も危ぶまれている現状を踏まえ、さらには資金面、運営面においても限界に近づきつつあるためこのような判断と致しました。長きにわたり様々な困難を乗り越え先輩諸兄が築き上げてきた会ですが、時代の流れと変化には当会は残念ながら対応できませんでした。

当会の歴史を振り返りますと、創立30周年当時は200名を超える会員数を有していました。(現在は正会員24名) 当時は大変賑やかに周年事業が開催されたことと優に想像ができます。50周年時の記念誌を読み解く

と「人手不足」という文字が見当たりません。たった20年でこうも状況が激変してしまうことを当時は誰が想像していたのでしょうか。

建築という部門は今後もなくなることはないかと思えます。様々な職種がAIやロボットに変わっている昨今、人生100年時代と言われて今は手に職を持つということが体力・気力が続く限り働くことができます。そういった魅力を発信しきれないことに歯痒い思いがあります。しかし、とあるデータ集計では「建築士」は人気があるとされていますが、増える要素は私が住む地方では全く感じられないのが現状です。

話は変わりますが、今年4月に大きな法改正があり、4号特例廃止や省エネ義務化となり設計側審査側両方で悪戦苦闘したかと思えます。変な話ではありますが、この変革に対応しきれない企業は改悪だと言われる方がもしかしたらいらっしゃるかもしれません。地震大国日本を考えると仕様規定を含め全棟構造計算提出が義務化されることは改良だと改正される前から思っていました。

※元より全棟構造検討されていることが前提の4号特例です。

各工法構造計算ソフトを使用すれば計算書は作成できます。しかし、エラーが出た時や経済設計をしたいと思った時はソフトを使えるだけでは不十分だと考えています。ソフトを使うならどう計算されているかブラックボックス部分をしっかりと理解をし打ち出された計算結果をいかに理解できているかが、今後の建築士の必要資質になるのではと考えています。とは言うものの、構造を苦手とする方は少なからずいらっしゃると思います。ここ数年でAIに取って代わる部分ではないかと思えます。先に述べたエラーや経済設計もAIが即答してくれる時代は一瞬で到来すると思えますので、今が踏ん張りどころだと考えております。

拙いCoffee Breakでしたが、今度も資質向上を目指し精進していこうと思っておりますので、今後も関わっていただける皆さまにはご指導ご教授のほど、よろしく願い申し上げます。ご寄稿と致します。

道士会の動き

本部の主な会議報告（8月）

- ◆第2回事業委員会（Web）
（開催日）2日（土）
1）「既存住宅状況調査技術者講習」
2）建築士がマンションの未来を変える大規模修繕「修繕の心得」講習会
3）「設計図書整合向上ガイドブック」「総合図書作成ガイドライン」講習会
4）今期開催した講習会の来期の開催
5）新規講習会、研修会を検討
- ◆第3回女性委員会小委員会（Web）
（開催日）5日（火）
1）全道大会
2）連合会からのお知らせ
3）建築士のツアーを作る プロジェクト
4）委員による仕事・趣味 紹介
- ◆第3回総務企画委員会（Web）
（開催日）15日（金）
1）令和7年第3回理事会議案
- ◆第3回役員会（Web）
（開催日）22日（金）
1）令和7年第3回理事会議案
- ◆第3回理事会（Web）
（開催日）29日（金）
1）令和7年一般会計事業報告及び収支状況報告（6月末）
2）令和7年特別会計事業報告及び収支状況報告（6月末）
3）会員の種別に係る定款改正（案）
4）（一社）北海道建築士会支部会費の増額（案）
5）（一社）北海道建築士会会員の旅費支給規則改正（案）
6）令和7年臨時総会（案）の開催
7）継続的な能力の開発の促進に関する規則に基づくプログラム審査評議会及び専攻建築士審査評議会評議員の委嘱（案）
8）令和9年からの（一社）北海道建築士会会員証の発行（案）
9）令和8年1月からの（一社）北海道建築士会会誌の発行（案）
10）令和8年一般会計事業計画及び予算編成
11）定款第6条に基づく会員の入会承認（案）
12）令和8年1月からの（一社）北海道建築士会会誌の発行（案）
- ◆第5回BIM推進特別委員会（Web）
（開催日）25日（月）
1）令和7年事業活動計画（doBIM 9月開催の運営体制と次回のセミナーテーマ、BIM寺子屋及びRevitハンズオンセミナー運営、他団体連携）

本部の主な行事予定（9月）

- 2日（火） 第4回女性委員会小委員会（Web）
- 12日（金） 第2回道東ブロック会
- 14日（日） 二級建築士（設計製図）試験
- 27日（土） 第47回全道大会（中標津大会）

編集後記

皆様、今夏の酷暑対策どうされていきましたか？私は春先早めに自宅へ取付けたエアコンを夜間も常に「除湿」運転。そろそろ届く電気代の通知が怖い日々です。さて9月1日は「防災の日」です。「国民が災害について認識を深め、備えを強化し、被害を軽減する。」のが目的で制定されました。道内では記憶新しいカムチャッカ半島沖地震による津波の襲来。全国各地で発生し、先月は釧路でも線状降水帯によるゲリラ豪雨による冠水災害、岩手県大船渡市での森林火災が発生など、災害が身近に感じられる昨今です。改めて防災への備えを再認識し、自宅や職場の防災グッズを再確認したいものですね。

情報委員会 奈良岡 修（札幌支部）

講習会・セミナーのご案内（9月）

監理技術者講習

17日（水） 札幌市

BIM寺子屋

12日（金） 札幌市

BIMセミナー

25日（木） 札幌市（Web）

BIMハンズオンセミナー

13日（土）～14日（日） 札幌市

CPD認定プログラム（8月認定）

◆第47回（一社）北海道建築士会全道大会基調講演

《日程及び会場》9月27日（土） 16：20～17：20

中標津町総合文化会館「しるべつと」

《単位数》 1単位

◆（一社）北海道建築士会震災建築物

応急危険度判定ミニペーパー机上訓練

《日程及び会場》9月27日（土） 随時

中標津町総合文化会館「しるべつと」

《単位数》 1単位

◆建築士がマンションの未来を変える大規模修繕

「修繕の心得」講習会

《日程及び会場》10月29日（水） 13：30～16：30

大五ビル2階会議室（札幌市）

《単位数》 3単位

◆doBIM Season9 The first seminar

《日程及び会場》9月25日（木） 18：30～20：00

オンライン

《単位数》 2単位

◆BIM寺子屋 Revit編

《日程及び会場》9月12日（金） 13：30～17：00

かでの2.7（札幌市）

《単位数》 4単位

《上記問合せ先》

（一社）北海道建築士会 TEL 011-251-6076

◆第13回まちづくりメイヤーズフォーラム

「持続可能なまちの実現に向けた未来戦略」

《日程及び会場》10月24日（金） 14：00～17：00

札幌ビューホテル大通公園ホテル（札幌市）

《単位数》 3単位

《問合せ先》

北海道建設部建設政策課 TEL 011-231-4111（内線29-671）

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■9月パスワード：Eng059

情報委員会委員長／前田 繁
副委員長／村山 賢司・立花智亜喜
委員／角張 隆昌・津山 浩
奈良岡 修

北海道建築士 No.337号

印刷 令和7年8月／発行 令和7年9月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番